

【計画名称】
「駿河湾・海洋DX先端拠点化計画」
【計画期間】
令和6年度～令和15年度（6～10年度内閣府「地方大学・地域産業創生交付金」を活用）
【総事業費（申請時想定）】
令和6～10年度 約20億円（5年間総額、うち交付金約13億円）

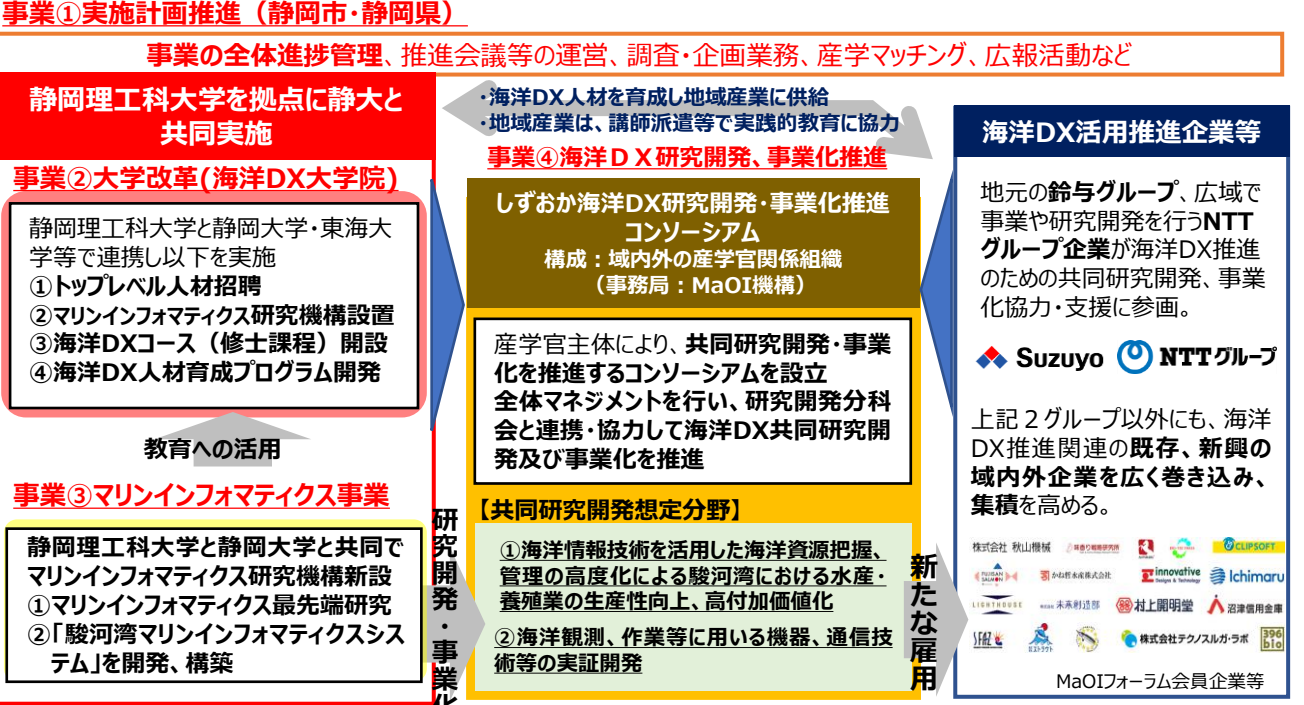
## プロジェクト概要

- 本プロジェクトは、駿河湾・清水港を活かした海洋研究・産業の拠点形成を加速させるため、静岡市、静岡県、関係大学、企業等が推進体制を構築し、連携して取り組む。
- まず、静岡理科大学に、高度専門人材を招聘し、多元的な海洋情報を駆使して様々な課題解決に結びつける「知」の体系としての「マリンインフォマティクス研究」と、それを駿河湾において実践する「駿河湾マリンインフォマティクスシステム開発」を推進し、研究力の強化を図る。あわせて、その成果を活用し、海洋関連産業界で海洋情報を駆使し産業のDX化を実践的に担える人材を育成し地域社会への輩出を可能とする専門教育課程やリカレントプログラムの整備等、教育力の強化を進める。
- また、上記の研究成果、基盤を活かし、域内外企業や大学等との協働による、水産業スマート化や、新たな食、エネルギー等資源供給につながる養殖業の開発などを「海洋DX共同研究開発、事業化推進」として展開する。
- これらにより、海洋DX人材の育成輩出、海洋DXの持続的な進化を支える研究拠点形成、海洋DXの産業実装や新産業創出、等を一体的に進め、若者雇用と産業活性化の循環を創出する。

### 《事業スケジュール》



### 《事業全体像》



### 事業① 実施計画推進事業（静岡市・静岡県）

- 静岡市長を会長とする「海洋DX推進会議」等の推進体制のもと、産学官の密な連携により事業を推進、進捗の評価検証等を行う。
- 本プロジェクトの推進に必要な関連調査、個別計画・指針等の検討を適宜行う。

### 事業② 大学改革事業（静岡理科大学）

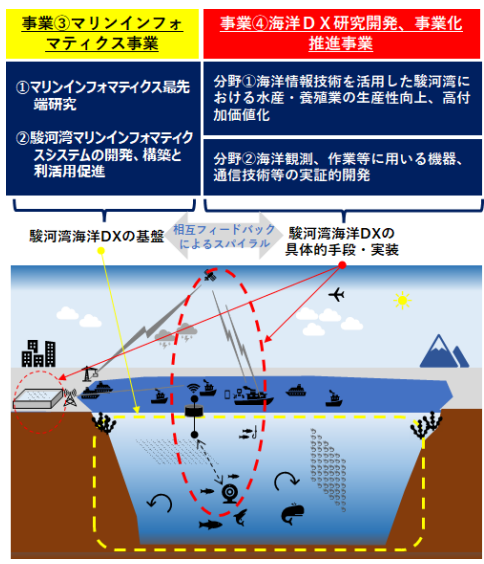
- 海洋・大気シミュレーション、データサイエンスのトップレベル研究者を招聘し、「マリンインフォマティクス研究」と、「駿河湾マリンインフォマティクスシステム」の開発を推進。
- 海洋情報を駆使しDXを実践的に担える人材を育成するため、修士課程への海洋DXコース設置（2027年度）、リカレントプログラム開講（2025年度）を実施。
- 上記は域内外大学等との連携により推進し、今後、連携する大学ごとの強みの集結による地域特性を活かした海洋DX研究・教育の拠点形成、強化を図る（大学等連携推進法人制度等の活用検討）。

### 事業③ マリンインフォマティクス事業（静岡理科大学、静岡大学）

- 「海洋情報・海洋生物生態・海洋観測通信システムネットワーク・海洋産業」の4つの科学工学基盤分野を横断し、海洋の多様なデータから、いかに有用な情報を生成し、対象課題を解決するか、までの『知』の体系をマリンインフォマティクスとして研究、構築する。
- 上記を前提として、駿河湾を対象とした海洋データの蓄積、可視化、高精度シミュレーションを柔軟に行うことができる「駿河湾マリンインフォマティクスシステム」を開発。事業④との連携により精度、実用性を高める。

### 事業④ 海洋DX研究開発、事業化推進事業（MaOI機構事務局）

- 域内外の大学等研究機関、中核企業、地域産業界、行政の参画による海洋DX推進産学官コンソーシアムを形成し、研究開発プロジェクトマネージャーのマネジメントのもと、駿河湾マリンインフォマティクスシステムとも連動した共同研究開発、事業化プロジェクトを実施。
- 海洋DXを用いた水産・養殖業等の高度化や、関連する海洋観測機器等の開発を中心に展開する。



### 《マリンインフォマティクスと海洋DX研究開発の推進体制》

